

ポール・ブールジェ [Paul Bourget (1852-1935)] 日本語文献

<翻訳> (初版のみ掲載、旧漢字は現代漢字に改めた)

(年) (タイトル) (訳者) (掲載誌/出版社)

明治

- 明治 35 年 『最後の一滴』 田山花袋 太陽
 * 『明治翻訳文学全集 翻訳家編 16 田山花袋・国木田独歩集』(大空社、平成 15 年) 所収。
- 明治 41 年 『写生帳』 広瀬青波 東亜の光
 明治 41 年 『村の娘』 広瀬青波 アカネ
 明治 42 年 『みなし児』 相馬御風 早稲田文学
 明治 42 年 『モニカ (梗概)』 馬場孤蝶 女子文壇
 * 『明治翻訳文学全集 翻訳家編 14 馬場孤蝶集』(大空社、平成 15 年) 所収。
- 明治 43 年 『上長官』 馬場孤蝶 太陽
 明治 43 年 『感謝』 馬場孤蝶 太陽
 明治 43 年 『鳥人』 馬場孤蝶 三田文学

大正

- 大正 4 年 『鑑定人』 森鷗外 新小説
 * 『鷗外全集』(岩波書店、昭和 46-50 年) 第 16 卷、『昭和初期 世界名作翻訳全集 第 1 期 31』(ゆまに書房、平成 16 年) 所収。
- 大正 8 年 『死之意味 戦時小説』 綾部千平 不明
 大正 13 年 『青夫人』 五味拓 アルス
 * 「アルス・ポピュラアー・ライブラリー9」として刊行。
- 大正 14 年 『女の復讐』 井上勇 近代社
 * 『世界短編小説体系 仏蘭西篇下』 所収
- 大正 15 年 『偽りの告白』 井上勇 近代社
 * 『世界短編小説体系 探偵家庭小説篇』 所収。

昭和

- 昭和 5 年 『弟子 他 1 篇』 山内義雄 新潮社
 * 『第二期 世界文学全集第 2 期 2 卷』として刊行。他 1 篇は『アンドレ・コルネリス』。短編小説『息子』『手引きをする女』『脅迫』も収録。
- 昭和 7 年 『裁く人』 木村太郎 春陽堂書店
 * 世界名作文庫 131。平成 20 年に復刻版刊行 (『昭和初期世界名作翻訳全集 172』ゆまに書房)。
- 昭和 10 年 『作家の心理 ボオドレエル・フロオベエル・スタンダール』 平岡昇 山本書店
 昭和 12 年 『秩序の為に』 森下辰夫 至文堂

- 昭和 12 年 『弟子』 山内義雄 白水社
 昭和 14 年 『死』 広瀬哲士 東京堂
 昭和 14 年 『大戦と女たち (ラザリイヌ)』 木村太郎 春陽堂書店
 昭和 14 年 『愛 (裁く者) 他 1 篇』 木村太郎 春陽堂書店
 *他 1 篇は『秘めし宝』。
 昭和 15 年 『家』(上・下) 広瀬哲士 東京堂
 昭和 15 年 『近代心理論集』 平岡昇 弘文堂
 *「シャルル・ボードレール」「ギュスターヴ・フローベール」「スタンダール (アンリ・ベール)」
 昭和 15 年 『心』 木村太郎 春陽堂書店
 昭和 15 年 『死の意味』 木村太郎 春陽堂書店
 昭和 15 年 『死の意義』 滝口亮 明窓社
 昭和 15 年 『痛ましい謎』 田辺貞之助 春陽堂書店
 昭和 15 年 『復活』 増田良二 富山房
 *『富山房百科文庫 フランス短編小説集 2』 所収。
 昭和 15-16 年
 『我らの行為は我らを迫ふ』(上・下) 工藤肅 白水社
 昭和 16 年 『真昼の悪魔』(上・下) 広瀬哲士 東京堂
 昭和 16 年 『罪 (モニック)』 新城和一 東京堂
 *他に『運転手ジャン・ルイ・コスト』『コーデリア』『シモーヌ』収録。
 昭和 16 年 『姉妹』 新城和一 東京堂
 昭和 16 年 『弟子』(上・下) 内藤濯 岩波文庫
 昭和 26-27 年 『嘘』(上・下) 内藤濯 岩波文庫
 昭和 26 年 『死』 木村太郎 小山書店
 昭和 27 年 『死』 木村太郎 新潮文庫
 昭和 27 年 『真昼の悪魔』(上・下) 広瀬哲士 新潮文庫
 昭和 29 年 『宿駅』(上・下) 田辺貞之助・内藤濯 岩波文庫
 昭和 31 年 『弟子』 山内義雄 河出書房
 *『世界文学全集 19 マルタン・デュ・ガール/ブルジェ』 所収。
 昭和 45 年 『アンドレ・コルネリス』 田辺保 中央公論社
 *『新集 世界の文学 23 A・フランス/ブルジェ』 所収。
 昭和 62 年
 『現代心理論集 デカダンス・ペシミズム・コスモポリタニズムの考察』
 平岡昇・伊藤なお 法政大学出版局
 平成 2 年 「スタンダール論」 青木謙三 国書刊行会
 *『フランス世紀末文学叢書 14 評論・随想集』 所収。

<明治期の紹介>

- 上田敏「仏蘭西文学の研究」、『帝国文学』第3巻第8号、明治30年8月。
永井荷風「仏蘭西現代の小説家」、『秀才文壇』第9巻第4号、明治42年2月。
—「近代仏蘭西作家一覧」、『三田文学』、明治43年6月号。
—「仏蘭西の自然主義とその反動」、『三田文学』、明治44年4月、8月号。

<大正期以降の研究>

- 太宰施門「ポオル・ブールジェの批評 — 新旧思想の分野」、『帝国文学』、大正5年2月
—「ポオル・ブールジェの小説 — 心理解剖より伝統主義へ」、『帝国文学』、大正5年3月。
—『伝統主義の文学』、仏蘭西学会出版部、大正6年。
—『ブールジェ前後 1870-1914』、高桐書院、昭和21年。
山内義雄「ブールジェ」(山内義雄・吹田順助『ブールジェ・ハウプトマン (岩波講座世界文学 第8回 近代作家論)』、岩波書店、昭和8年所収)
辰野隆「ポオル・ブルジェ考 ブルジェの『死』」(『印象と追憶』、弘文堂書房、昭和15年、『辰野隆選集』第2巻、改造社、昭和25年所収)
新田章「ニーチェとニヒリズム — P・ブールジェとF・ニーチェのニヒリズム理解をめぐる」、『比較文学年誌』第26巻、平成2年。
倉知恒夫「芥川龍之介における『パステル』 — ポール・ブールジェをめぐる」、『比較文学』第35巻、平成4年。
村田裕和「仏蘭西学会の設立と伝統主義論争 — エミール・エックと太宰施門の第一次世界大戦」、『比較文学』第50巻、平成19年。

<ブールジェに言及した平泉澄の著作>

- 平泉澄「国史家として欧米を観る」(講演)、昭和6年11月(『平泉博士史論抄』、青々企画、平成10年所収)
—「民族の特異性と歴史の恒久性」(講演)、昭和7年2月(『平泉博士史論抄』、青々企画、平成10年所収)
—「革命論」、『教学叢書』、文部省、昭和9年(『先哲を仰ぐ』、日本学協会、昭和43年所収)
—「序」(ブールジェ『秩序のために』森下辰夫訳、至文堂、昭和12年所収)
—『伝統』、弘文堂、昭和15年。
—『革命と伝統』、時事通信社、昭和39年。
—『悲劇縦走』、皇學館大学出版部、昭和55年。
「東京大学旧職員インタビュー (3) 平泉澄インタビュー (3)」『東京大学史紀要』第15号、平成9年3月。

関連年表

- 1852年（嘉永5）ポール・ブールジェがフランス北西部のアミアンで生まれる。
- 1866年（慶応2）エミール・エックがアルザス地方のベルフォールで生まれる。
- 1878年（明治11）川島忠之助によるジュール・ベルヌの翻訳『新説 八十日間世界一周』（前編）が出版される。
- 1883年（明治16）ブールジェ『現代心理論集』刊行。
- 1889年（明治22）ブールジェ『弟子』刊行。東京帝国大学仏蘭西文学科創設。
- 1891年（明治24）東京帝国大学仏蘭西文学科にエックが初代教授として着任。
- 1895年（明治28）平泉澄が福島県で生まれる。
- 1904年（明治37）日露戦争（～1905年）
- 1908年（明治41）エミール・ゾラ『パリ』の飯田旗軒による翻訳『巴里（後篇）』が発禁処分になる。
- 1910年（明治43）大逆事件によって社会主義者が弾圧される。
- 1914年（大正3）第一次世界大戦が始まる（～1918年）。
- 1915年（大正4）ブールジェ『死の意味』刊行。
- 1916年（大正5）エックの在職25年を記念して「仏蘭西学会」が設立される。
- 1917年（大正6）太宰施門『仏蘭西文学史』『伝統主義の文学』刊行。ロシア革命が起きる。
- 1921年（大正10）エックが東京帝国大学を退官。
- 1930年（昭和5）東京帝国大学国史学科の助教授であった平泉澄がヨーロッパ留学に出発（～1931年）。
- 1931年（昭和6）パリ滞在中の平泉澄がブールジェから手紙を受け取る。
- 1932年（昭和7）五・一五事件が起きる。
- 1935年（昭和10）ブールジェが死去。天皇機関説事件を契機に国体明徴声明が出される。
- 1936年（昭和11）ニ・ニ六事件が起きる。
- 1937年（昭和12）平泉澄が「序」をつけたブールジェ『秩序のために』の翻訳が刊行される。日中戦争が始まる（～1945年）。
- 1938年（昭和13）国家総動員法が制定される。
- 1939年（昭和14）広瀬哲士によるブールジェ『死の意味』の翻訳『死』が刊行され、ベストセラーになる。第二次世界大戦が始まる（～1945年）。
- 1940年（昭和15）平泉澄『伝統』が刊行され、ベストセラーになる。
- 1941年（昭和16）太平洋戦争が始まる（～1945年）。
- 1943年（昭和18）エックが死去。
- 1945年（昭和20）終戦直後に平泉澄が東京帝国大学を辞職。
- 1984年（昭和59）平泉澄が死去。